

財団法人まちみらい千代田
平成22年度第3回理事会議事録

1 日時

平成23年3月29日（火） 午前10時～午前10時58分

2 場所

ちよだプラットフォームスクウェア5階505～506会議室
（千代田区神田錦町3-21）

3 理事現在数 15名

4 出席者

（1）出席者（11名）

若林尚夫、小池譲二、小嶋勝衛、末川文昭、高木茂、高橋陽子、
林勇、堀田康彦、師岡文男、山岸幸雄、若杉雄二

（2）委任状提出者（4名）

北澤悦子、齋藤潔、宗廣信、高橋正人

（3）当法人の出席者

事務局長金井義之

5 議題

（1）議案第4号 財団法人まちみらい千代田副理事長の互選について

（2）議案第5号 財団法人まちみらい千代田評議員の選任について

（3）議案第6号 平成23年度財団法人まちみらい千代田事業計画（案）について

（4）議案第7号 平成23年度財団法人まちみらい千代田収支予算（案）について

（5）議案第8号 財団法人まちみらい千代田資産運用規程の改正について

（6）議案第9号 財団法人まちみらい千代田役員の報酬等に関する規程の改正に
ついて

6 報告事項

（1）公益財団法人まちみらい千代田定款（案）について

7 開会、議事録署名人の選任

定刻に至り、若林理事長が寄附行為第35条第1項の規定により議長となり、開会を宣言した。まず、若林理事長に開催の挨拶を求めた。

若林理事長は挨拶の冒頭で、この度の東北地方太平洋沖地震における被災者に対する哀悼の意を述べ、出席者全員による黙とうを促した。そして、次年度の事業計画及び今後の方向性についての概要説明を行った。

次に本日の理事会の定足数について、寄附行為第27条の規定に定める定足数を満たしていることを確認し、本理事会が有効に成立している旨を告げた。

引き続き、本理事会の議事録署名人として、林勇理事と師岡文男理事の2名を指名したい旨を諮ったところ、満場一致の賛成があったので、両理事を指名し、本人もこれを承諾した。よって、議案の審議に入った。

8 議事の経過及び結果

(1) 議案第4号 財団法人まちみらい千代田副理事長の互選について

配付資料に基づき、事務局から次のような説明を行った。

寄附行為第17条第2項の規定で、理事の互選により選任する事と定められているとの説明があり、小池譲二理事を指名推薦する旨の提案があった。

これを出席理事に諮ったところ、全員異議なく議決した。

(2) 議案第5号 財団法人まちみらい千代田評議員の選任について

配付資料に基づき、事務局から次のような説明を行った。

現在の評議員の任期が平成23年3月31日で満了となるため、平成23年4月1日からの2年間の新たな任期について、寄附行為第17条第1項に基づき提案する。

これを出席理事に諮ったところ、全員異議なく議決した。

(3) 議案第6号 平成23年度財団法人まちみらい千代田事業計画(案)について

議案第7号 平成23年度財団法人まちみらい千代田収支予算(案)について

議案第6号及び議案第7号は相互に関連があるので、これを一括して審議したい旨を諮ったところ、全員異議なく了承した。

続いて、配付資料に基づき、事務局から次のような説明を行った。

平成23年度の事業計画としては、平成22年度における事業の4つの柱である「住宅まちづくり」「区民住宅の供給」「産業まちづくり」「普及啓発」はそのままに、中項目や小項目について整理を行い、事業の内容についても若干変更している。

住宅まちづくりの分野では、これまで同様にマンション管理組合の活性化支援

に重点を置き、引き続き、マンション理事長連絡会の運営、情報の受発信等を行い、施策に反映していく。

産業まちづくりの分野では、新たな事業として、千代田区商工団体連絡協議会の運営し、区内の商工団体の連携強化を図る。また、実質的な事業は24年度からとなるが、地域活性化等に資する新たなビジネス立上げの動機づけとなるような支援策の検討を行う。それから財団の財政基盤の自立という意味で、これまで以上にちよだプラットフォームスクウェアの会議室提供に注力する。またインキュベーション施設同士の連携を深める形で事業を進めていきたい。市町村サテライトオフィス東京は現在10団体が入居しているが、満室となる18団体を目指すとともに、団体間の連携や千代田区内の皆様との交流を図っていきたい。

普及啓発では、これまで千代田区観光協会の活動を支援してきたが、一般社団法人として独立することとなったので、項目としては外れるが、これまで同様に連携を行っていく。

収支予算については、財団が自立して運営していけるように予算を組んでいる。収入の主な増加分は、基本財産運用、特定資産運用、区民住宅供給事業に関する事業費補助金及び人件費補助金、そして、会議室使用料である。また、収入の主な減少分は区からの人件費補助金と不動産貸付事業収入である。

一方、支出の主な増加分は会議室リニューアルに伴う経費、区民住宅供給管理事業費である。支出の大幅な減少分としては、減員分に伴う人件費、事業見直しによる事業費等である。

このような支出減、収入増により、経営基盤安定基金積立預金の取り崩し収入はゼロを見込んでおり、財団が自立して運営していける予算となっている。

また、例年行っている千代田まちづくりサポート事業の助成金の原資には、賛助会費を充てているが、今年度はこの中から100万円程度を今回の災害の義援金として拠出したい。

以上のような説明がなされ、出席理事に諮ったところ、全員異議なく議決した。

なお、その際、次のような質疑応答や意見があった。

○義援金については、行政が行政に対して、また日本赤十字等の団体を通じて等という形が出来てきているが、まちみらいの特色を生かす事が重要になるかと思う。どのように運用し、どこに拠出するように考えているか。

(事務局)

財団では市町村サテライトオフィス東京を運営しており、その中に被災された地域の団体があるので、そういった繋がりがある所へ支援する事も選択肢の一つである。

○今回の震災で区内の建物でも被害が出ているが、そうした建物への保全や予算手当はあるのか。

(事務局)

耐震関係の助成そのものは区が実施するが、震災に伴って大規模修繕を行う事は考えられるので、具体的な事前調査費あるいは相談料等について支援していく。財団としては最初のきっかけ作りをしていきたい。

○総務省の実証実験として始まった SNS のハードウェアの更新時期を迎え、今後のあり方について検討を行うとあるが、実名での登録による信頼度の高さや機能性を備えた Facebook のような物に移行していくのか、はたまた、このままの形で継続するのかを問う時代に入ってきていると思うので、是非とも検討してもらいたい。

(事務局)

数団体のみの活用となっている現状等を考えると、他の SNS を紹介し、廃止する方向で検討する事が良いかと事務局では考えている。しかし、利用者がある話なので、ハードウェアの更新を行うのか、また更新時期を少しずらして移行等をしてもらうのか、利用者と話し合いながら検討していく。

(4) 議案第 8 号 財団法人まちみらい千代田資産運用規程の改正について

配付資料に基づき、事務局から次のような説明を行った。

基本財産の運用は、1社以上がダブル A 格の格付け、運用財産については1社以上が A 格の格付けとした。これは日本国の国債がトリプル A からダブル A になったことから、理論上これを超える国債等の債券は購入出来ないので、実体に合わせるためである。

以上のような説明がなされ、出席理事に諮ったところ、全員異議なく議決した。

(5) 議案第 9 号 財団法人まちみらい千代田役員の報酬等に関する規程の改正について

配付資料に基づき、事務局から次のような説明を行った。

今回の改正は、副理事長の報酬額について、区を退職した幹部が再任用された際の報酬に合わせた形である。

以上のような説明がなされ、出席理事に諮ったところ、全員異議なく議決した。

9 報告事項

公益財団法人まちみらい千代田定款(案)について、配付資料に基づき事務局から報告がなされた。

10 その他

事務局から、次回の評議員会は平成23年5月下旬に開催を予定していることを伝えた。

11 閉会

以上をもってすべての審議を終了したので、午前10時58分に議長は閉会を宣言し、解散した。

上記の決議を明確にするため、議長及び議事録署名人2名がこれに署名、押印する。

平成23年3月29日

財団法人まちみらい千代田
平成22年度第3回理事会

議 長 若 林 尚 夫 ⑩

議事録署名人 林 勇 ⑩

議事録署名人 師 岡 文 男 ⑩